

第2期上下水道事業経営委員会（第4回）の主な質疑

【HP版】

平成29年7月13日（木）10時00分～11時30分

上下水道局3階301会議室

質 疑	答 弁
【1 平成28年度決算について】	
<p>A委員</p> <p>（水道利用加入金制度について） 一戸建とアパートでは、単価に違いがあるか。 制度の趣旨はどのようなものか。 他県、他市の状況も踏まえたうえで、単価の変更や廃止等の予定はあるか。</p>	<p>上下水道局</p> <p>水道利用加入金については、口径別の料金設定としており、口径が同一であれば、一戸建における加入金とアパートの加入金に相違はない。 加入金制度は、昭和50年ぐらいに導入された制度であり、制度趣旨は、新旧の利用者の負担の公平性を図るもの。 会計処理は、当初資本的収入としていたが、現在は収益的収入として処理しており、水道料金の改定の際に少しでも改定率を引き下げするために変更した。今後、給水収益が減収となる中で加入金制度をなくすということになれば、水道料金自体を引き上げるということもありうる。全国のほとんどの自治体でも以上のような考え方から加入金を徴収している。 加入金制度については、今後水道事業を継続していくなかで、水道料金と関連して検討していきたい。</p>
<p>B委員</p> <p>高岡市の人口は減少しているが、世帯数は増加している。その原因およびここ数年の傾向は。</p>	<p>上下水道局</p> <p>核家族化の進展により、人口は減少しているが世帯数は増加している。父母と別居してアパート等に居住される方が増加していると思われる。この傾向が何年続くかは解らないが、世帯数もいずれ減少傾向になるとと思われる。</p>

B委員	<p>老年層がアパートやマンションに移るとい傾向も世帯数の増加の大きな要因として見受けられるか。その場合、空き家が増加するが、水道施設の維持管理との関わりは。</p>	<p>上下水道局</p>	<p>世帯数の増加は、若年層のアパートへの移住が主要因であると考えている。空き家の増加に関しては非常に大きな課題となっており、市でも対策を検討している。</p> <p>水道事業は、今後受益者の少ない地域への管路延長を行っていくことになり、拡大整備の時代から維持管理の時代に移行していく中で給水行政サービスの在り方を検討していきたい。</p>
C委員	<p>水道事業の人員費は、大きく下がっているが、簡易水道事業の人員費は上昇している、その要因は。</p>	<p>上下水道局</p>	<p>簡易水道事業は、現在職員1名が従事しており、人員費の増加はその1名の昇給や超過勤務等である。</p>
D委員	<p>高齢者が入居しているグループホーム等の給水栓数のカウントの仕方は。</p>	<p>上下水道局</p>	<p>給水栓数は、メーター毎でカウントする。アパートは部屋毎に、シルバー施設等は1件でカウントしている。</p>
E委員	<p>水道事業と簡易水道事業の統合による影響や課題はどのようなものが考えられるか。</p>	<p>上下水道局</p>	<p>料金体系に関しては、水道事業、簡易水道事業は同一であり変化はない。</p> <p>統合により、近年赤字であった簡易水道事業を水道事業の中で経営を管理することにより、効率的な事業運営の中で簡易水道の維持管理や設備投資を行っていく。</p> <p>将来的には、ソフト面だけでなくハード面においても水道事業と簡易水道事業を統合し維持管理経費の削減や、危機管理体制を整備したいと考えている。</p>
<p>【2 水道ビジョン(平成19年～平成28年)の検証】</p>			
B委員	<p>上下水道の統合、簡易水道の統合等の制度および組織の大きな変更の中で、現在までは独立採算で運営されてこられたが、これまでの市政との関わりの違いと、今後の市政との関わりはどうなるのか。</p>	<p>上下水道局</p>	<p>これまでは、独立で運営していた側面が強かったが、下水道の統合で市政との関わりが強くなってきた。財政面においても市の一般会計の繰入れがないと下水道自体成り立たない状況である。</p> <p>また、人口減少に関しての市の施策も影響するため、今後はこれまで以上に一層市政との関わりを深め上下水道事業の運営に取り組んでいきたい。</p>